

表 シカゴ連銀経済報告（2020年1月15日公表）

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用は変化なし 賃金はわずかに (slightly) 上昇	今後1年間は控えめ (modest) に拡大が続くとしていた関係者の予想に反し、雇用は変化がなかった。専門職・技術職・営業職およびマネージャーレベルの従業員に雇用が集中している。引き続き人材市場は厳しく、全てのスキルレベルで人材が不足している。製造業では引き続き需要が停滞傾向にあるが、従業員を解雇すると需要が回復した際に再度雇用することが困難となる恐れがあるため、従業員の勤務時間を減らすことで対応している。 管理職・専門職・技術職・マネージャーレベルの従業員の賃金が上昇した。
物価	小売価格はわずかに上昇 生産者価格はやや上昇 (edged up)	今後1年間の物価は控えめなペースで上昇が続くと予想している。 食料品価格がやや上昇したとの報告があり、小売業者は輸送費および追加関税の経費の大部分を消費者に転嫁しているとの声も聞かれた。 生産者価格は、原材料費の若干の値上げを受けてやや上昇した。
個人消費	控えめに (modestly) 増加	小型乗用車の販売は、新車・中古とも緩やかに上昇した。ゼネラルモーターズ (GM) のストライキの影響によるGM車部品の不足は引き続き報告された。 非自動車業界の小売売上げは、主に電化製品、エンターテインメント、家具、宝飾品の分野で控えめに上昇した。11月下旬の感謝祭を起点とする年末商戦期間の売上げはおおよそ関係者の予想通りとなり、eコマース市場の堅調な成長の一方で、実店舗型小売店は伸び悩んだ。
企業支出	わずかに増加	小売店の在庫は適切な状態を保っている一方で、GM車のディーラーからはストライキ終了後の在庫の補充が想定よりも遅いとの声も聞かれた。製造業からも適切な量の在庫を保っているとの報告があったが、重機は需要の減速により在庫が増加している。 設備投資については、関係者は今後1年間は控えめに拡大すると見込んでいる。主な設備投資先として、IT機器および知的財産があげられた。
建設と不動産	わずかに増加	住宅建築はやや増加したものの、住宅取引および非住居建築は変化がなかった。 商業不動産の取引は最高点レベルにまで増加している。フレックス・オフィスと呼ばれる間取りを用途に合わせて変更できるオフィス用物件と工業用物件の成長が大きい一方、大型小売店舗およびショッピングセンター内の小売店舗は難しい状況が続いている。
製造業	横ばい	鉄鋼の需要は、GMストライキ終了後の自動車業界からの需要増を受け、わずかに上昇した。自動車製造は大きな変化はなかったが、堅調なレベルを保っている。GMの部品納入業者は、ストライキ後の受注は予想通り戻ってきていると報告している。重機の売上げは、控えめに上昇した。特殊金属の需要は全体的には変化なかったが、航空宇宙・防衛・エネルギー分野からの受注が増える一方で、農業・大型トラック製造業からの受注は減少傾向。
金融	控えめに改善	株式市場・債権市場の関係者によると、米中間の貿易交渉の進展などを受け、金融情勢は控えめに改善していく。
農業	米中貿易交渉の進展を受け、状況はやや楽観的に	2019年の農産品収穫量は、品目によって例年どおりあるいは例年を下回ったものの、2019年初頭から続いた天候不順の影響を受け予想されていたほどには、収穫量は減少しなかった。コーンと大豆の価格は上昇しているが、天候不順の影響を受け品質が悪化した一方で、大雨の影響を受けた作物の乾燥コストがかさんでいるため、生産者の利益を圧迫する状況となっている。ただし、政府の財政支援により、生産者の財政状況は昨年と同水準が保たれる見込み。

(出所) シカゴ連銀経済報告を基にジェトロ作成